



子供の森の幻想

矢田丘陵の子供の森。そこで僕は彼らを見たんです。

僕も驚いたけど彼らも驚いた。男が二人に女が二人、傍らの木の上には子供が二人。

女達が慌てて、黒いごみの袋を後ろに匿すのを見た僕は、恐ろしさに足が竦んで、そこにぼんやり立っていました。

やがて、女が黒い袋から赤いものを二つ取り出して、僕に渡しながら言いました。

「ここで見たことは、だれにも言ってはいけないよ」

「……………」

それから、毎年秋になるとあの森に行ってみるけど、どうしてもあの場所がわからない。あれは夢だったのだろうか。彼らは一家のように見えたけど、本当は人間の家族ではなかったのだろうか。

でもあの秋の、甘い柿の味は、しっかりと覚えている。

(子供の森 013 2024-06)

